2024年度JANPU-CBT実証事業　相談会におけるQ&A

・本リストは、2024年6月20日のJANPU-CBT相談会において、事前質問への回答および当日の質疑応答にてお伝えした内容を要約したものです。

相談カテゴリ		事前相談内容	回答
1	看護教育における CBT構想に関して	看護教育制度の中で、CBTの取り扱いはどうするのか。 （CBTで及第点が取れなかった場合の対応／単位として利用すべきか／経費の徴収方法／看護教育課程の種別によるCBTの扱い／等）	看護教育制度の中でのCBTの取り扱いについては、本実証事業は「参加型倫理実習の実現をに向け」た事業の一つと考えています。この議論の遡上には、ご質問のとおり複数の課題があり、これらの課題については、看護学教育全体としての議論が必要であろうかと存じます。本実証事業の現時点では、これらに先んじてCBTそのものへの慣れや運用評価を目的としております。
		CBTをどのように各教育機関は考えたらよいのか。合否の基準は決まっているのか。	現状、CBTは実習前に必須とされているわけではなく、今後看護界での合意形成が必要と考えます。合否の基準（カットオフポイント）については検討に至っていません。将来的な展望としても、CBTでどこまでの到達度を評価できるか、あるいはOSCEやCBTでどこまで資質能力を問えるかかまだ不明瞭な部分もあります。
2	カリキュラムとの適応	自学のカリキュラムに応じたCBT受験の可能性はあるのか。	現時点でのJANPU-CBTでは、出題領域のみの開示となっており、問題や出題領域の範囲について開示してございません。そのため、各会員校のカリキュラムに応じているかについて個別に判断することは難しいと存じます。
		CBTの参加を希望しているが、カリキュラムが変更になり、各領域の実習が時期をずらして段階的に計画されている都合上、一斉に各領域に関連したCBTを受験することが困難である。この点に関してはどうしたらよいか。	カリキュラムの特性に応じた、柔軟なCBT実施が望ましいという意見かと捉えます。会員校の状況は多様であり、現状は各会員校で検討してもらうことも必要と考えてます。JANPU-CBTの実施方法を含め具体的な対応策など今後の課題と考えております。
		問題の対象学年を履修者に合わせて変更されるのか。	JANPU-CBTでは、「3年前期・後期セメスタ直前の学生」を想定した問題となっており対象学年による問題の変更はございません。
3	実証日について	実証事業の開催日程を実施前年度に決定できないか。	本実証事業はJANPUでは単年度の事業となっていること、また使用しているCBTシステムMEXCBTについても同様の事業になっている性質上、現状、次年度の日程決定が困難な状況でございます。 なお、本年度の実証日に関しましては、昨年度実施の2024年度JANPU-CBT意向調査をもとに、より多くの会員校が参加しやすい日程を選定した過程がございます。
4	実施体制・運営方法	CBTを実施するための体制、運営方法、環境等について知りたい。	現時点でのJANPU-CBTでは実施体制、ならびに運営方法については各実証校が決定できるとしております。 JANPU-CBTにおける実施体制や運営方法、環境（システムや教室）については、2024年度実証事業募集要項や、2023年度実施要項に記載の例を参考にしていただけますと幸いです。 また、JANPU説明会・報告会・研修会（2024年3月30日(土)開催）2023年度JANPU-CBT実証事業報告資料が会員専用ページにアップしてございますので合わせてご参照ください。
5	ICT環境・デバイス	実証校に参加した大学では，学生パソコンで実施した学校もあったが，使用上の課題（学生側の準備の負担や教員側の説明の負担，私物パソコンのためカンニングのしやすさ，設定時や使用前後に問題はないかなど）はなかったのか。	学生への説明ならびに動作確認、CBT実施時の座席配置、巡視方法など各参加校でこれらの課題について対応いただいております。
6	試験会場	大学の情報演習室を受験会場と想定いる。隣り合うPCの画面が見えない距離の場合、遮蔽物は必要か。	座席配置の間隔があれば遮蔽物の必要はございません。
		医学部のCBTは，パソコン毎にランダムに問題が出題されると聞いており隣をみてもカンニングしずらいと聞いているが，そのような仕様になっているのか。	JANPU-CBTでは、問題のランダム出題に対応はしておりません。教室の課題では複数教室での実施や学生の座席配置による対応をされております。
7	参加学生	実施時期が夏季休暇中であり、3学年全員に必須とすることが困難のため応募できない。 実施時期、実施日の拡大検討をお願いしたい。	2023年度の実証事業からは、学年全員の参加を規定としておりません。多くの会員校にCBT運用評価をしていただきたく、会員校の実情に合わせ、一部の学生のみの実証参加も可能でございます。 また、実証時期、実証日の拡大につきましては、本年度は2期4回と実証日を増やしておりますが、今後も課題と考えております。
8	結果返却・確認	試験結果の通知方法等について詳細をお教えいただきたいと考えております。	JANPU-CBT実証事業では、MEXCBT「実証用学習eポータル」による各学生へ、各時限の点数を成績として通知いたします。この結果を参加校でまとめていただき各校全体の成績を把握していただいております。2023年度　実施要項試をご参照いただければ幸いです。
		CBT受験後の学生へのフィードバックついて、今年度も受験生が把握できるのは正答数のみなのか。	成績結果の返却につきましては、本年度も同様となります。
		学生は自分で成績を確認できるという説明があったが、教員は学生の成績をどのように確認できるのか。	システム上、教員は受験学生の成績を一括して確認することはできません。教員が確認できるようにするためには「学習eポータル」から学生自身に成績を転記させ、参加校自身で回収する必要があります。このプロセスで、学生自身も学習不足の部分について確認できるというメリットもございます。
9	欠席・遅刻学生への対応	欠席した学生のCBT試験問題の活用は可能か。	JANPU-CBTでは、問題漏洩や問題配信時間などの規定があり、欠席学生の追試験は実施しておりません。
		１限の遅刻者は、以降の２限から４限まで受験不可になるのか。	1限目に遅刻した学生については、以降受験できない規定になっております。
10	その他	CBT受験中の問題表示について。前年度は、受験中、一度回答した問題には戻ることができず、見直しや修正が不可だったが今年度も同様か。	2023年度と同様になります。
		サインイン方法について。タブレット端末によってはＱＲコードを読み取った際に写真撮影するものもあるが、よろしいか。	実施要項ではアクセスすることができるとしております。「学習用eポータル」は公開されている情報ですので差し支えありません。しかし、実施要項を学生に共有することはできません。
		教職員用のアカウントについて。JANPU-CBT当日の使用、複数の教職員分のアカウント申請、教職員用アカウントによるMEXCBTにログインするための番号付与が可能か。	教員用アカウントにつきましては、問題漏洩の観点から、複数の準備、当日の利用などに関して対応困難と存じます。
		試験監督者が試験中の画面を「のぞき込む行為は厳に慎んでください」について。学生がトラブルなく問題解答できているか巡回しながら確認する必要があると思うが、その際に画面をみて確認するという行為は避けた方がよいのか。	状況によりご対応いただいて差し支えございません。
		試験監督体制について。副監督を、教職員1名に、ネットワークトラブル時に駆けつける事務職員1名の体制にしても問題はないか。（試験監督に携わる者はＣＢＴ関係者として誓約書を記載する）	JANPU-CBT運用体制については、各参加校が決定いただけます。CBT実施上の不正行為防止やトラブル対応などに十分留意され、各参加校の状況に合わせてご検討いただければ幸いです。
		「実証用学習eポータル」アカウントと「学生用簡易マニュアル」は、CBT実施日のどのくらい前に実証校に届くのか。	実証日の1か月前を目途にアカウント、実施要項を送付予定です。それまでのご準備につきましては、2023年度の実施要項に準じてご準備いただけますと幸いです。
		PCを学生分購入するのは難しく、学生がPCを持ち込んでもらう必要があると考えている。その場合、学生の不正行為を防ぐことは可能か（MEXCBT以外の画面を開いてしまうなど）	MEXCBTのみ開き、他のプログラムは閉じてもらう必要があります。また、持参PCのトラブルとして、学生が自身のPCの設定をできなかったり、型が古くトラブルが起こるなどの事象がありました。これに対しては大学で貸し出し用の予備のPCを準備しました。 また、別トラブルとして、回答後にMEXCBTを閉じる際、×印をクリックして終了すると回答記録が残らない設定になっています。この点はマニュアルに沿って注意する必要がございます。

一般社団法人日本看護系大学協議会
看護実践能力評価基準検討委員会